

Why Go Green?

今、なぜ緑が求められるのか。

さまざまな空間で、緑を取り入れるケースが増えている。
緑に何が期待され、どのような効果をもたらすのか。
2組の建築家と造園家が、空間設計と植物の関係を語る。

DIALOGUE 1

植物が建築に流れる時間に 豊かさをもたらす

緑がデザインのポイントとなる多くの建築や商業空間を設計してきた永山祐子さん。その植栽計画の大半を任せるのが、造園家の荻野寿也さんだ。永山さんは荻野さんに信頼を寄せ、自宅ペランダの植栽を依頼した程。植物と光に囲まれたリビングにて、建築に緑を取り入れる意味を語り合った。

建築に軽やかさを与える植物の力

—お二人が協働することになったきっかけを教えてください。

永山 荻野さんに初めて会ったのは、2011年にアパレルブランド「sisi」のショールーム兼オフィス（P.7）を設計した時です。荻野さんのファンだった施主から「植栽は荻野さんにお願いしたい」と紹介されて初めてご一緒しました。

荻野 僕が「こんな風に植物を植えたい」という要望に対して、永山さんは「それに合わせてインテリアはこんな風にしてみませんか」と、柔軟に対応してくれてとてもスムーズに進んだ現場でした。室内に木を植え、植栽の横に樹木のような形のハンガーラックを置き、そこに服やバックをかける魅せ方が斬新でした。今は移転してこの空間自体はなくなってしまったのですが、永山さんとの最初の仕事としてとても印象に残っています。

永山 「sisi」で荻野さんと一緒にお仕事をしてから、私自身が植物の魅力に目覚めたと言っても過言ではありません。これをきっかけに荻野さんに植栽をお願いする機会が増えていきました。一軒屋型の洋菓子店「BLANC」では、荻野さんから「細長く少しの隙間でも植栽を入れると建築が映えますよ」とアドバイスしてもらいましたよね。植栽エリアがちょっとまとめるのではなく、建物外縁の狭い幅に植物を植えることで、大地の上に建築が立っている印象を与えることができると言

Yuko Nagayama

Toshiya Ogino

われたんです。下草があることで建築の足元がふわっと浮いているような軽やかさが生まれたのは、嬉しい発見でした。

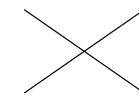
—荻野さんはさまざまな建築家や設計事務所と協働されていますが、永山さんの建築にはどのような印象を持っていますか？

荻野 一言で言ったら植物を入れやすいです。生け花でも器が良いと花が生けやすいように、やはり建築のフォルムが美しいと植栽や石を据えやすい。植え込みのエッジにしても余分なものがないし、植栽していてディテールへのこだわりがよく分かります。設計コンセプトをお聞きして植栽の提案をさせてもらう際も、僕の考えを尊重してくださるのでとてもありがたいです。

永山 荻野さんが選ぶ樹種や草花が好きです。繊細でしなやかな自然樹形の雑木を使った荻野さんの庭は、面相筆で描かれた水墨の日本画の自然を思い起こさせる。建築は線の集合体ですから、荻野さんが選ぶラインの美しい樹木と相性が良いのかもしれない。それと私が荻野さんを信頼しているのは、状況に合った無理のない植栽提案をしてくれるところ。施主があまりメンテナンスの手間やコストをかけたくない場合もありますよね。例えば靴店「ADINA MUSE SHIBUYA」(P.111)の場合は、これまであまり店内に植物を取り入れた例がないということだったので、手のかからない樹種を選んでもらいました。ただ実際に植物を入れてみたら、スタッフの方が水やりをしたり枯葉をとってくれたり、グリーンの魅力に目覚めてくれたのがとても嬉しかったですね。

荻野 室内に植物を入れるのは、日々のメンテナンスが大前提です。やはり植物は生き物ですから、スタッフの方の日々のメンテナンスに加えてプロの定期的なメンテナンスが重要です。時々この店

永山祐子
(建築家)



荻野寿也
(造園家)



永山さんの自宅リビングにて。ペランダの植栽は荻野さんが手掛けた。地上8階ながら、直植えされた植物が四季折々の姿を見せる